

水稻生育情報 (No.5)

令和3年7月14日
茨城県県西農林事務所経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

5月から7月第1半旬までの気象は、日平均気温が平年より0.4℃高く、降水量は平年比93%、日照時間は平年比86%となりました。

水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を表1に示します。7月9日現在の生育は、草丈は平年並み～やや低く、莖数は調査地点によってバラツキがあり、葉色は平年並み～やや濃くなっています。幼穂長から見る出穂予測日は、平年並みからやや遅い予測となっています。

表1 水稻定点調査結果(7月9日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	莖数 本/m ²	葉色 葉色版 SPAD値	幼穂長 mm	出穂予測日 (月/日)
筑西市	5月6日	56	74.0	459	3.9 36.0	1.0	8/3
一本松	(5月2日)	(55)	(83.3)	(533)	(4.0) (33.2)	(16.0)	(7/27)
下妻市	5月1日	48	84.7	539	4.4 37.7	10.5	7/27
加養	(5月1日)	(49)	(83.3)	(531)	(3.6) (33.1)	(18.5)	(7/25)
桜川市	5月8日	50	76.2	615	4.1 34.5	3.4	7/31
真壁町飯塚	(5月5日)	(52)	(80.2)	(482)	(3.7) (32.4)	(6.2)	(7/30)

()内は平成28～令和2年の5ヵ年平均値

注)出穂日は、今後の天候により前後する場合があります。

【今後の管理のポイント】

1 水管理

出穂期後30日間(5月上旬移植で8月末まで)は間断かん水を続け、根に酸素と水分を与え粒を大きくしましょう。

2 いもち病

7月に入ると雨が多く日照が少ない状況であり、多発生の恐れがあります。葉色の濃いほ場や密植で風通しの悪い圃場等ではいもち病の発生が確認されています。特に、上位葉(止め葉から1～3枚目)で発生が認められた場合は、速やかに防除を行いましょう。

3 カメムシ類

カメムシ類が出穂期～糊熟期にかけて穂を吸汁することで、斑点米の発生に繋がります。出穂前は畦畔等のイネ科雑草に潜んでいるので、除草して生育密度を下げましょう。なお、出穂直前の除草はカメムシを水田内に追い込む事になるので、出穂前2週間以降は除草をやめましょう。



クモヘリカメムシの成虫と幼虫

また、農薬による防除については以下のとおりです。

①成虫を対象とした農薬による防除適期は、イネの穂揃期に

なります。この時期に成虫を多く確認した場合は、防除を実施します。

②幼虫を対象とした農薬による防除適期は、出穂後10～15日頃(乳熟期)になります。

特に、斑点米の発生を防ぐには、乳熟期以降の幼虫密度を低下させることが重要です。

4 イネ縞葉枯病

抵抗性品種の作付け拡大が最も有効な対策ですが、今後の対策として、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息密度を減らしましょう。ヒメトビウンカの幼虫は、ひこばえや畦畔、農道のイネ科雑草の中で越冬します。エサとなるひこばえや雑草をなくせば、越冬することができませんので、早めに秋耕したり、イネ科雑草を除草剤等でしっかり枯らして次年度の対策を実施しましょう。